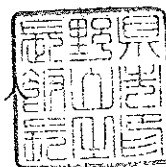


道 第 96号  
平成20年10月17日

国土交通省道路局長 殿

飯山市長 石 田 正 人



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平素は、地方行政に対するご理解、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のありました標記について、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政を進める上で参考にしていただければ幸いに存じます。

記

1. 提出書類   ① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など       (様式①)  
                  ②-1 地域の現状と抱える課題                               (様式②)  
                  ②-2 地域の目指すべき将来像                           (様式③)  
                  ③ 道路施策の重点事項（代表事例、期待する効果や評価等）(様式④)
2. 問合せ先   長野県 飯山市 建設水道部 道路河川課  
                  電話 0269-62-3111       (内線278)

②-1 地域の現状と抱える課題

長野県飯山市

1, 飯山市は、特別豪雪地域でありますのでまず除雪から課題を整理したい。  
 ア、社会情勢の変化に対応した国庫補助対象除雪機械の購入台数枠確保について。  
 企業が比較的少ない本市は、市外に通勤する人が多く冬期間は通勤時間までに除雪する事が絶対条件になっており、除雪後の道路積雪状況を考慮して午前3時に作業開始をし7時の通勤時間帯までには終了するようになっているが、降雪の状況により除雪が間に合わず加えて全体に出勤時間が早まっている為、多くの苦情が寄せられ大変苦慮しております。  
 しかしながら国庫補助による除雪機械購入台数が決まられており、対応出来ない事から市外に移住していく人が後を絶たず人口減少に歯止めが掛からない。  
 ぜひ社会情勢に対応した国庫補助除雪機械購入枠を増やしていただき、雪国でも通勤に支障しない道路状況を構築していただきたい。  
 イ、除雪オペレーターの確保について  
 近年公共工事の減少と相まって一般公開入札が主流と成っていることは、談合防止の観点からやむを得ない事と考えておりますが市外業者の受注が増え、市内の作業員減少と高齢化が進んでいます。  
 安定した除雪オペレーターの確保のため、寡雪時の生活保障が出来るよう、待機料補助制度等の創設をお願いしたい。

2, 平成26年度開業を控えた北陸新幹線飯山駅の課題

新幹線駅と広域を結ぶアクセス道路について未整備な箇所が多く、このままでは新幹線の持つ優位性を十分に発揮する事が出来ません。  
 新幹線駅周辺整備につきましては、まちづくり交付金等を受け区画整理事業、駅交通広場など一定の見通しが立った事は、大変感謝を申し上げます。  
 しかしながら、冬期間閉鎖交通止めの国道、県道が多くたとえば飯山市と新潟県妙高市、上越市を結ぶ道路は国道2本、県道3本、市道1本ありますが、冬期間(11月～6月)は国道1本、県道1本の2本だけです。  
 これらの道路は幅員も3～4mと狭く、夏でも大型、中型バスは通れず乗用車のすれ違いもやっとの状況です。又多くの市道の幅員も同様で未だ除雪車が入れない状況の道路が全体約730kmのおよそ半分という状況であり、新幹線開業に向けてスキー客をはじめ観光客の誘致に大きな障害になっております。  
 地域の活性化の為に欠かせない大切な条件の一つが道路の整備であります。  
 道路特定財源の一般化とも言えども生活道路、地域の活性化に必要な道路は、ぜひ確保していただきたい。

【現状】

生活必需品としてのマイカー増加、経済社会を支える物流の主役であるトラックの大型化及び登録台数の増加等により、幹線道路、生活道路、昼夜を問わず交通量が増加している。  
 路、社会の急激な環境変化に伴い、円滑で安全な交通を確保する道路整備、歩行者の安全対策、交通量と大型車の増加による道路、橋梁等の損傷に伴う維持補修、積雪寒冷地域においては除雪路線・延長の増加や凍結防止対策等、道路管理者は道路通行者及び地域社会からの交通確保の様々なニーズに対応しなければならない状況となっている。  
 また、公共交通の少ない地方部においては自家用車を唯一の移動手段にしている高齢ドライバーの増加、高速・複雑化する道路環境に順応できない高齢者の事故が増えるなど、高齢化社会の一現象となっている。

【課題】

道路管理者は、車社会における道路通行者及び地域社会からの様々なニーズへの対応を迫られる中、膨大な事業量の処理と事業予算の確保に苦悩している。  
 社会経済が低迷し自治体の財政運営もひっ迫している中、道路財源も縮減を迫られており、新たな道路整備はおろか傷んだ道路の維持補修も追いつかない状況にある。行政においては将来を見据えた交通計画の検討と整備・予算計画の策定が課題と考える。

【展望】

都市部に比べて地方の道路整備が遅れている現状を踏まえ、立ち遅れている地方道路整備の早期進捗のため補助制度の拡充・緩和を望む。  
 また、積雪寒冷地における道路整備・除雪・凍結防止対策等についても厳しい気象条件・特殊な地理的条件を考慮した補助制度の拡充を切望する。  
 なお、車社会の急激な変化は、交通事故の増加、ガソリンなど限りある資源の浪費、環境汚染、騒音、渋滞、廃車部品品の飽和などの諸問題に結びついている。今後は、安価な利用者負担の公共交通（鉄道・バス・水上交通等）の再整備と、自家用車が唯一の移動手段である地域や高齢化社会に対応したデマンド交通の定着化を図ることにより、自家用自動車の通行を抑制し、車社会が抱える諸問題を改善することが急務と考える。自治体等が公共交通網整備やデマンド交通の構築、運営（運行）に取り組む際の支援・補助制度の強化を望む。

飯山市の地形は、南北に長く西には関田山脈、東側に三国山脈が存在し、その間を千曲川が南北に流れている。

本市は、日本でも有数な豪雪地帯であり道路の建設・維持管理は、全て冬の為にあってとても良い。積雪は、飯山市の南部から北部にかけ『一里一尺』と言われ市南部で積雪深が1.0mの時、市北部では3.0mに達する。

南北の骨格軸には、国道 117 号があり市街地近くは 223 百台/日、北部の市境では 38 百台/日の交通量があり、まさに市の大動脈となっています。

しかしながら、冬期間大型トラクターのスリップ事故等により道路がふさがれ、交通止めになると代替道路としては幅員の狭い国道しかなく、車のすれ違いが出来なく交通止め状態になり大混乱になってしまいます。

東西の骨格軸には、西に国道 292 号と県道 3 本、東に国道 403 号と県道が 1 本ありますが、その大半が未改良となっており、特に冬期間は延長約 28 km の中で南部で 2 本しか通行が出来ないため、新潟県上越市との交流が出来なくなっています。

こうした現状の中、地域が疲弊し人口減少に歯止めが掛からず、中山間地に糧を求める農業人口も減り、用水路の維持管理に困難をきたし荒廃地が増え、ひいては土砂崩壊を引き起こすと言ってしまう連鎖が始まっており苦悩しております。

車社会の中、道路が無いところは、地域間の交流も停滞してしまいます。

現に道路網が整備された地域は、元気がありましますし若者が定着しております。

高規格道路整備とは申しませんが、少なくとも夏冬とおして通行できる道路整備を実現し、地域の活性化を実現してゆきたい。

今後の道路行政についての意見・提案  
③道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

様式④  
長野県飯山市

| ○ 重点事項             | ○ 代表事例                                                                                                                                                                          | ○ 期待する効果や評価等                                                                                                                                   | ○ その他 |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|
| <p>安心して住む為の道造り</p> | <p>道路予算の縮減により道路改良が<br/>来ず、狭い道路で救急車、消防自動<br/>車が入れず、吹雪の中担架で病人を<br/>救急車まで搬送している<br/>又山間地域の火災において、消防<br/>車がスリップして消火活動に支障を<br/>来してしまふ事もあります。</p>                                     | <p>安心安全の確保が自治体に課せられた大<br/>きな責務であります。<br/>その為の道路予算は確保していただき<br/>たい。</p>                                                                         |       |
| <p>災害に強いみちづくり</p>  | <p>市内山間部に地滑り地帯を抱えて<br/>おり、本年6月にも雪覆い上部から<br/>地滑りが発生した。たまたま迂回路<br/>が有り大きな交通混乱には至らな<br/>かった。<br/>又、大半の国県市道は、雪崩の<br/>発生箇所であり、遠く迂回をしたり<br/>交通止めをしたりで、火災、急病人<br/>の対応が大きな課題と成っている。</p> | <p>地震、土砂災害、豪雪等の自然災害に際<br/>し被害を最小限に抑えられる様、のり面を<br/>含め頑固な構造の道路の構築、迂回路の構<br/>築をすることによって災害の被害を最小限に<br/>押さえることが出来る。</p>                             |       |
| <p>協働のみちづくり事業</p>  | <p>幅員が狭く救急車が行けない生活<br/>道路の改良、コンクリート舗装等、<br/>出来るところは住民と協働での施行<br/>を年間3000万円の予算で進めており<br/>ます。市では「材料支給」「重機械<br/>の貸し出し」「技術指導」をし、住民<br/>は労力を出して施行をしています。</p>                         | <p>土地を寄付して自分たちが作った道路と<br/>言うことで、愛着があり花を植えたり掃除<br/>をしたり、道路の大切さが身に付いていま<br/>す。<br/>自治体が道路施行の際に貸し出す重機械<br/>の購入補助金制度及び材料の補助制度を創<br/>設していただきたい。</p> |       |